

1 学校経営ビジョン 令和5年度スローガン「築け 地域との新たなつながり 拓け 学校の可能性 照らせ 生徒の未来」 コミュニティ・スクールとして地域資源を学びに取り入れ、総合学科の特色を活かした教育を実践し、社会や地域に貢献できる人材の育成を目指す						
2 目指す学校像 ○ 生徒一人ひとりに寄り添い、全職員で支援する体制の整った学校 ○ 新しい教育に挑戦し、学力の定着を図り、生徒の望む進路を実現できる学校 ○ 地域に開かれ、地域に愛され、地域の生徒が通いたいと望む学校						
3 本年度の重点目標 (1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 指導力・専門性の向上 (3) 特色・魅力ある学校づくり						
重点目標	具体的取組	評価項目	具体的取組又は達成状況	自己評価	評価 学校運営協議会評価 及び 意見	
基本的な生活習慣の確立	生徒理解と支援のための教育相談体制の充実	いじめ・不登校対策委員会	・毎月、定例会として実施 ・管理職、年次主任、担任及びカウンセラーによる情報共有 ・早期対応による生徒支援	3	○それぞれ教育相談が実践されていることが伺えます。今後とも継続して取り組んでいただきたい。 ○学校に行った際に先生方が相談しやすい雰囲気を持たれていると感じました。安心できる居場所づくり、安心できる人間関係の構築がされているからこそできていると思いました。 ○SNS 悩み相談など、いつでもどこでも個人端末より相談できる体制を紹介するなど、対面だけでなく相談方法を生徒が選べるようにしてあるかと思えます。 ○いじめ等の事案が発生しないためにも、引き続き人権学習を通して、お互いを思いやる気持ち、人権の意義やその重要性について、正しい知識を身に付けていただきたいと思います。 ○いじめ・不登校対策委員会が、毎月定期的に開催されていることが、素晴らしいと思います。教育相談といじめ不登校対策委員会、ケース会議、個別面談などが一体的に開かれることで、生徒一人一人に応じた丁寧な対応が可能となるのではないかと思います。 ○いじめは子どもたちの日常的な関係性の中で発生し、加害者と被害者の二項関係だけでなく、観衆と傍観者も存在します。いじめ防止のためには、傍観者をいじめを防止する当事者へと育てていく生徒指導が必要です。そのためにはクラスのなかでの人間関係づくりを起点とすべきだと思います。これは人権学習についても言えることです。アクティブ・ラーニングを取り入れなければ生徒の意識を根本的に変革することは困難ではないでしょうか。 ○いじめは、当本人の心身の苦しみがつづき、社会人になっても記憶として精神面等が残るなど影響があると思います。親身になって対応をお願いしたいと思いますが、将来、社会人になりどんな職場内でもコンプライアンス等の法令遵守が必要とされる時代である事を、十分に生徒全員へ教育、研修会等を盛り込んでいってほしいと思います。生徒全員自らの意識改革に取り組んでもらえば学校内や家庭生活環境の向上になるのではないかと思います。	
		教育相談週間	・各学期の初めに十分な時間を確保し、全生徒との個人面談を実施 ・生徒の悩みや相談を迅速に収集し対応			
		人権学習	・外部講師を招聘して、1年次6回、2年次2回、3年次2回実施			
読書活動の推進	朝の読書	・毎朝10分間の読書を実施。 ・年間2回の絵本の読み聞かせを担任・図書委員（生徒）により実施	3	3	○学校図書館の3機能である読書センター、学習センター、情報センターとしての活用がなされていると思います。閲覧・貸出冊数の経年比較もどうなっているか気になります。 ○情報収集のための複数の新聞の閲読なども大切です。 ○読書をする事で、読解力も身につく、知識向上につながるため、今後とも継続してもらいたいです。 ○毎朝、読書活動をしているところが素晴らしいです。具体的な成果を教えてください。 ○読解力の低下は、コミュニケーションを含めた子どもたちの人間力の低下をもたらしているとの深刻な指摘があります。読書を通して獲得した知見を「ブックトーク」などを通じて発信する生徒主体の取組みを一刻も早く導入すべきではないでしょうか。これは3度目の提言になります。 ○読書を通して、表現力が豊かになりコミュニケーション向上になるものと思います。	
生活習慣の確立支援	規範意識の醸成	・学期始めや学期終わり等には年次集会を開催し、容儀指導を実施 ・朝のSHR前に「立腰指導」を実施 ・CO1グランプリ（遅刻ゼロを目指すもの）を実施し、毎月クラスごとのランキングを出し、年度末に表彰	2	2	○立腰指導が素晴らしいです。 ○社会人や進学しても必要なことなので、生活習慣の確立支援は大事なことです。 ○本庄高校の生徒は、道で会っても元気にあいさつしてくれるので、とても気持ちが良いです。普段の指導のおかげだと思います。 ○先生方の熱心な指導も大切ですが、生徒自身が考えて行動できるように生徒会が中心になって動くのも良いかもしれません。 ○教師主導で規範意識を養成することにはおのずと限界があります。なぜなら生徒は常に「受け身」であるからです。規範の意味を認識させるためにも生徒の主体的な活動が必須です。「指導」のための集会ではなく、生徒が部活動などの成功体験を「主体的に語る」場として位置付ける工夫が望まれます。	
美化意識の高揚	部活動生の朝清掃	・職員有志も含め、校外外で毎朝実施（野球、サッカー、剣道、フェンシング）	3	3	○町民からも生徒の環境美化意識に対し、高い評価を聞いています。 ○朝、校門前を通った際に実際の活動の様子を見ることができました。校風・雰囲気を作る行動として、望ましい姿が外部に発信されています。学校だけでなく自宅や地域でも自然に清掃活動に取り組める生徒になってきていると思います。 ○日常的に生徒と会った時に爽やかな挨拶をしてくれますので、幼保小中高の積み重ねが対外的なところでも生きていていると思います。 ○部活動生や職員有志の方。毎朝、ご苦労様です。本庄高校の地域貢献が継続できることを願っております。 ○高校で清掃活動に力を入れていることに驚きました。いつもきれいな学校であるという印象です。 ○一部の教員や生徒の活動に限定することなく、美化意識の高揚を教育課程の中に位置づけることはできないのでしょうか。特別活動の学校行事のなかには「勤労生産・奉仕活動」があります。学校行事として学校周辺の「ごみ拾い」等を慣例化すれば、「地域とともにある学校」の面目躍如となるはずだと思います。これも2回目の提言です。 ○生徒みずからの自主性や協調が出てくる等、人間関係も良くなると思いますので継続して実施してほしいと思います。	
	清掃指導の徹底	・全ての清掃区域に職員を配置し、率先垂範で生徒と共に活動 ・清掃時間に各年次主任は、固定した清掃区域を割り当てず、校内美化指導の監督として巡回指導				
指導力・専門性の向上	基礎学力の定着指導	「授業の受け方5原則」	・教室掲示による周知 ・1年次においては、入学オリエンテーションで周知 ・PTA総会での周知	2	3. 2	○全国・全県的な各種調査後に結果を比較・分析することによって、指導の成果や課題が見えてくると思います。 ○次のステップに必要な力、社会に出て必要な力を明確にし、AIに代替されない人間にしかできない資質・能力を身に付ける時間に割いてほしいと思います。 ○基礎学力の定着について、手厚くきめ細かな指導を行っていただいており、生徒が自信を持って授業に取り組んでいるのではないかと思います。できたら、授業参観の機会があるとよいと思います。 ○学校設定科目「Honjo学」の成功・不成功が今後の本庄高校総合学科の特色を決定づけるものと思われる。この科目の設置によって、残念なことに伝統を形作るものに思われた「サクセスタイム」は消失してしまいました。いやしくも「学」を名乗るのであれば、それなりの専門性を有しなければなりません。今後は全校を挙げて集約を結集して取り組み、やがては教科書の編纂等をも目指す必要があると思います。教科書の編纂については閉校となった都農高校の先行事例があります。 ○基礎ができていないと次のことが困難ですので、学力向上に努めてください。生徒の良いところを見抜いて褒めてやる事も大切だと思います。
	学校設定科目「Honjo学」	・1・2年次に「学びなおし」の講座を設け基礎学力定着の取り組み				
	G T Z（学力到達ゾーン）	・基礎力診断テストにおいて、1・2年次とも「国語」が向上傾向 ・2年次において、国数英のD3ゾーン（低学力ゾーン）が減少				

系列の専門性の向上	コミュニティ・スクール事業、校外活動等	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源の活用例 【FB】スイーツ製作、ホースセラピー、農福連携講座 【BI】国富町民祭での販売実習 【LD】テーブルマナー講座、保育講座、フラワーアレンジ講座、家庭クラブ料理講習、歩き方講座 他 	3	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用した取り組みが、系列ごとの専門性の向上につながっていることを実感しています。 地域資源を発掘し、最大限に活用されていることが実践研究発表でもよく分かりました。研究発表、ポスター発表についてはホームページでの紹介や冊子化もされているかと思えます。ナンバリングやラベリングなどで学びや成果の蓄積をすぐに後輩が検索できるようにしてあるとよろしいかと思えます。 後継者不足や空き家問題など、さらなる地域の課題解決につながる取組にも期待しています。国富町役場の関係各課とのコラボも大切です。 いずれ宮崎大学の地域資源創成学部との連携も考えられるのではないかと思います。 地域資源や人材とのマッチングを生徒自身ができるようにすると面白いと思えます。 地域資源を活用した校外活動等を実施され、生徒の皆さんも地域を再認識でき、今後の進路目標を決める機会になると思えます。 特色ある取組を多数推進しており、地域の中の学校という役割を十分発揮していると思えます。 生徒自ら考える力、行動、体験へと結びつき大変良いことです。
検定合格・資格取得の充実	検定合格・資格取得状況	<ul style="list-style-type: none"> 日本農業技術検定 5名 (R4:5名) 全国高等学校家庭科技術検定1級三冠 6名 (R4:2名) ビジネス実務計算検定1級 4名 (R4:0名) ビジネス実務文書検定1級 2名 (R4:1名) 漢字検定3級5名 (R4:5名)・準2級2名 (R4:3名) 2級1名 (R4:1名) 英語検定2級1名 (R4:0名) 	2	<ul style="list-style-type: none"> 手話のコンクール出場など、新たなことへ挑戦する積極的な姿勢がすばらしいです。 R4年度に比べ、検定の種類や合格者が増え、先生方の献身的な指導によるものと感じました。 先生方のきめ細かな指導の成果だと思います。生徒の自信ともなるので是非更なる推進を期待します。特に、受験への意欲付けの工夫が必要ではないかと思えます。 前年度に比して目覚ましい実績を上げているのは、指導を担当された先生方とそれに応えた生徒の努力のたまものだと思います。 受験者が少ないのか、興味がない生徒が多いのか割合を示してほしいです。生徒が興味を持てる資格種類は何かないでしょうか。
進路目標達成	進路目標達成率	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定率98.5% (R6.1月末時点) 県内就職率97% (昨年度95%) 進学は、宮崎県立看護大学(1)、宮崎公立大学(1) 宮崎産業経営大学(9)、南九州大学(2)、東京農業大学(1)、日本大学(1) 他 	4	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の大学と連携協定を結ぶなど、いろんな外部とコラボして、共同研究などしていく方法もあると思えます。 小・中学校に生徒さんをお呼びして、学びや夢を語っていただきたいと考えております。 進路決定率や就職率、進学も増えたのは、先生方の献身的な進路への相談や指導、基礎学力の定着指導 (R4 サクセスタイム等) によるものと感じました。 進路決定率が高く驚いています。先生方の指導の賜です。 教員の間に担当部署を設置して、地元大学との連携にも本格的に取り組んで欲しいと思えます。総合学科でしかできない、総合学科だからこぞできる連携があると思えます。 県内就職率が高まる事は、県内の活性化につながると思えます。先生、生徒の努力の成果だと思います。
	公務員指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 公務員1次2名中2名合格 (昨年度7名中4名合格) 自衛隊航空学生に内定 (全国88名) 自衛隊4名/4名合格 		
教職員の授業力向上	校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「ICTの活用及びユニバーサルデザインを意識した授業実践」をテーマにし、全ての教職員が研究授業を実施 	2	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価が昨年同様低いようですが、教職員のスキルアップをお願いします。 小学校・中学校の初任者の先生を校種間体験研修で受け入れていただきました。授業をさせていただいたり、生徒や先生と触れ合う機会を得たことで本庄高校の魅力をさらに知ることができました。 1人1台端末を活用した取組は、次のステージに移る段階かと思えます。 ユニバーサルデザインを意識した授業実践を研究授業されており、先生方の準備等多く、大変であると思えます。 一人1台端末の活用のあり方については、小中学校も同じ課題意識です。様々な面で連携した研究も必要ではないでしょうか。例えば、町の教育研究センターとの連携もあるとよいのではないかなと思えました。 GIGA スクール構想のもとに ICT 教育の推進は避けは通れない喫緊の課題です。スキル向上のためには授業をテーマにした職員研修の充実が望まれます。 取り入れていることは良いことであり、授業の楽しみが増えるのではと考えます。将来、生徒にとって役に立つものと思えます。
	ICTを活用した授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 1年次生全員が、PCを購入し授業等で活用。次年度の新1年次生にも購入する パソコンやプロジェクターを使った授業の展開 Google (クラスルーム) を活用した課題の配付 		
特色・魅力ある学校づくり	学校運営協議会制度の活用	「本庄ひなたLABO」	3	<ul style="list-style-type: none"> 校長先生の分析がとても分かりやすく、課題解決につながると実感しました。中でも実態調査の数値の部分を経年で比較していき、取組の妥当性をさらに検証していただきたいです。 地域に開かれた環境整備ですので、特色ある学校として本庄ひなたLABOの存在自体の情報等を発信できると良いと思えます。
	学校設定科目「Honjo学」の導入	進路結果アンケート結果	3	<ul style="list-style-type: none"> 史上初の快挙、おめでとうございます。きめ細かな指導の結果、課題解決が図られ、大きな成果が表れたと思えます。 国公立大学への合格実績もすばらしく、後輩への励みや本庄高校を選ぶ大きな目玉になると思えます。 基礎学力の定着指導により、就職試験や進学の結果やアンケートでも8割以上が有効性があると回答があったのも、生徒の皆さんの努力や先生方の献身的な相談対応や指導と思えます。 本年度から取り入れた取組の成果が早速出ているようです。今後も、計画的・継続的な取組を期待しています。 就職試験の全員合格は「史上初」との言葉が光ります。 成果は大いにあると思えます。
デュアルシステムの実践研究	アンケートの結果	<ul style="list-style-type: none"> デュアル実習の協力事業所約150社 2年次生92名全員参加。実習期間は約10日間 (歴代最高成績) 事後アンケートにおいて、生徒の97%以上が「職業選択の役に立つと思う」と回答 協力事業所の87%以上が、「次年度も実習を受け入れても良い」と回答 	3	<ul style="list-style-type: none"> 協力事業者年々増加しており、デュアル実習の成果を高く評価します。 実習の成果指標を明確にすると良いと思えます。理想と実際のギャップに気づき、早期退職なども防げると思えます。 地域企業のリスト、人材のリストなど財産となるものをさらに有効活用していただきたいと思えます。 デュアル実習に関する発表に関して、来年も受け入れたいと思ってもらえるように、当日来れない受け入れ先の方にどう伝えるのかを知りたいです。同じ受け入れ先を希望する後輩に、どう発展した動きをさせるのか、まだ受け入れ先になっていない企業などへの今後のアピールの方法も知りたいです。 座学による学ぶ事ができない地域での実習は、将来の就職や進学の大きなきっかけになると思えます。 10日間の長期間に渡っての実施、大変素晴らしい取組だと思います。協力いただいた事業所の評価が高いのも、生徒の積極的な取組を物語っています。 他校に例を見ない「デュアル・システム」は本校の大きな特色であるという意識と矜持を生徒・教員・保護者が共有すべきだと思います。 社会に触れることにより、人として大きく成長していく機会であり、大変意義あるものだと思います。
部活動とボランティア活動の推進	部活動・同好会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 加入率の向上: 73.8% (R4:71.2%) サッカー部 R5 県高校総合体育大会 第3位 (歴代最高成績) 馬術部 (個人) 全国選手権大会 新福稔太郎 優勝 九州高等学校馬術大会 新福稔太郎2位 (団体) 全国選手権大会 ベスト12 九州高等学校馬術大会 4位 フェンシング 九州選抜大会男子団体 準優勝 (3月開催全国選抜大会出場権獲得) チームブルーベリー同好会 第6回校内スイーツバトル開催 学校公認 YouTuber「チーキーズ」が、本庄小学校への出前授業 美術部、書道部、音楽部各種コンテスト入賞 	4	<ul style="list-style-type: none"> 昨年より加入率や成績が良くなっており、部活動の先生や先輩から学んだことは、他では得られない貴重な経験だと思います。 サッカー部は、県で第3位、馬術部2年の新福稔太郎さんが宮崎県学生栄誉賞を受賞や各所で、各種コンテスト等入賞された学生の皆さんおめでとうございます。 学校公認の YouTuber「チーキーズ」の皆さんが本庄小学校へ出前授業されたことは、大きな経験であったと思えます。出前授業以外にも地域資源 PR にも活動の幅が広がることが期待します。 部活動の実績等は、本校の特色の一つになっていると思えます。町内の高校ということで、町民にも元気を与えています。小学生も活動についてよく知っています。 部活動加入率の向上は学校活性化の大きな要因だと思います。今後は対外大会の実績にもつながっていくはずだと思います。 運動部、文化部、同好会とも素晴らしい結果だと思います。町民として誇らしく思います。指導顧問の方お疲れ様です。

	ボランティア活動の参加状況	<ul style="list-style-type: none"> 活動実績 19 回 (のべ 413 名参加) これまで継続して参加していたものに加え、新たなお化け屋敷 IN 国富や募金活動、地域の保育園の行事などにも参加 地域の祭りや行事にとって本校生徒のボランティア活動がなくてはならないものとして定着 			<ul style="list-style-type: none"> これらのボランティア活動は「地域とともにある学校」の実践例として大切にしてほしいものです。 ボランティア活動が定着し、各種団体から大変喜ばれています。 余裕があれば、地元の中学校や小学校、さらに幼保とのかわりをもつことで、部活動を通じた本庄高校への憧れが育まれるかと思えます。 ボランティアを申し込みたい方が気軽にアクセスし、依頼できる仕組みが Web 上で紹介されると面白いと思います。 自己肯定感を育むためにも、ボランティア活動や自分が必要とされていることが認識できるような仕掛けをしていくと良いかと思えます。ボランティアを受けた方の声が届く仕組みやその紹介も大切だと思います。 	
	国際理解教育	国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「アジア高校生架け橋プロジェクト」(文科省)による留学生の受け入れ(今年度、アイスランドより 1 名受け入れ) 6 年連続、計 8 名の留学生の受け入れ 	3	<ul style="list-style-type: none"> 留学生のその後、そしてかかわって変化のあった生徒のすることについても知りたいです。 多様な国からの留学生受け入れることで、留学生の国の歴史や文化を知ることは、生徒の皆さんの大きな刺激になると思います。 留学生を積極的に受け入れて、国際理解を推進している取組は、特色の一つでもあると思います。具体的な成果を教えていただけるとありがたいです。 毎年県教委が主催する小村寿太郎顕彰弁論大会は、国際理解・国際協力を推進する高校生弁論大会の宮崎県版として開催されています。本校における留学生の受け入れ体験等をベースにぜひ立論し参加して欲しいと切望します。これも 2 回目の提言です。 留学生との交流を図る中で、大きな話ですが一つの国際社会的な雰囲気を感じ取ることができ、生徒にとっては刺激になり大変良いことだと思います。逆に、留学生から感じた学校の事はどうでしょうか。 	
	情報発信の充実	戦略的な学校情報発信	<ul style="list-style-type: none"> HP ブログ更新 44 回 (R4: 62 回) 1 日体験入学に中 3 生名参加 191 名 (R4: 166 名) 部活動 1 日体験入学に中学生 64 名参加 (R4: 62 名) 総合学科実践研究発表会に本庄中・綾中・高岡中・八代中生 260 名が参観 新聞や広報誌掲載約 15 回、TV 放映約 10 回 	3	<ul style="list-style-type: none"> 1 日体験入学を中学 3 年生だけでなく、中 2・中 1、さらに小学校高学年にも広げる方法もあるかと思えます。 同じく遠征や社会科見学のコースに取り入れてもらうなどの方法もあるかと思えます。 積極的な情報や魅力の発信がなされています。 学校のホームページの QR コードをあらゆる場所に提示するなどしてもっとアクセスしてもらえると良いと思います。 「スクールガイドブック 2024」にも、それぞれの詳細 HP にすぐアクセスできるような QR コードを各ページの各箇所に貼り付けると良いかと思えます。 本庄高校 PR 動画良くてきていました。パンフレットだけでなく情報も分かりやすく説明もあって良かったです。今後とも HP や SNS 等を活用し魅力的な本庄高校の情報発信をお願いします。 様々なメディアを活用しての広報活動が積極的に行われています。また、中学校との連携も盛んです。できましたら、小学生にも分かる広報をしていただくとありがたいです。 些細に思われる日常の生徒の動きのなかにも情報として発信する価値のあるものが多く存在します。発見に努めてください。 総合学科実践研究発表会は今年も素晴らしい出来栄でした。生徒たちの表情が輝いていました。門川高校、日南振徳高校、小林秀峰高校の生徒会役員等も招待してみても如何でしょうか。 学校情報の発信は積極的に行われていると思います。 	
その他	PTA との連携	PTA の活動	<ul style="list-style-type: none"> PTA 総会は 3 年ぶりに対面で開催。二次集会を含めた出席率は近年では最高の % いちいがし祭前の美化作業を実施、80 名以上の保護者が参加。 PTA 朝のあいさつ運動 9 月～2 月の期間に、月 3 日間実施 PTA 新聞、年間 3 回発行 	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の生の声を発信して、もっと見える化する良いかと思えます。 新型コロナウイルスも 5 類に移行し、PTA 総会も対面で開催されて、よかったです。保護者の皆さんも仕事等でお忙しい中、学校の美化作業も実施され、大変であったと思います。先生の皆様も 5 類に移行されましたが、インフルエンザ等の感染症対策で大変であると思いますが、よろしく願います。 学校運営協議会の委員にも PTA の方がいらっしゃるの、学校運営協議会で PTA との連携を熟議してもよいのかなと思えます。 生徒と教員の情熱が確実に保護者にも伝わっていることの証だと思われる。

4: 十分達成・期待以上 3: 概ね達成・ほぼ期待どおり 2: 検討の余地あり・やや期待を下回る 1: 不十分・改善を要する



分析及び改善策	<p>【学校運営協議委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生の一日体験入学や総合学科実践研究発表会への参観者数が年々増加していることは、本庄高校(総合学科)の特色を活かした教育の実践に対する興味を表れであると思えます。今後もさらに注目される学校として発展するよう地域と連携した学校経営に邁進されることを期待いたします。 ○生徒主体の第 21 回総合学科実践研究発表会に参加させていただき、課題意識を持って解決に取り組み、それを堂々と主体的に分かりやすく発表できる姿に感銘を受けました。まさにこの発表会に本庄高校の魅力や成果が集約されていました。ダイジェスト版の動画をアップするなど参加できなかった方にも良さや価値が届くようにすると良いかと思えます。後輩や県内外の中学生に発信することにより、様々な方への刺激や魅力ある学校としての価値がさらに高まると思えます。プレゼンテーションは見せ方がすばらしかったです。配付資料はわかりやすく、読みたいと思える資料となっていました。プレゼン能力の高さが見て取れました。ポスター発表の在り方を今後どう充実・発展させていくかが楽しみです。 ○今後とも、基礎学力の向上も必要なことですが、総合学科の特色やコミュニティ・スクール事業による校外活動等により、地域資源と連携し系列の専門性向上も図っていただきたいと思えます。 ○様々な取組を戦略的に行っていて、驚いています。本庄高校の生徒が生き生きと授業や行事等に取り組んでいる様子が目に浮かびます。今後も、今やっている取組に改善を加え充実しながら、縦のつながりと横のつながりを大切に教育の推進が行われることを期待しています。 ○時間的に難しいのかもしれませんが、学校運営協議会委員が授業の様子や行事等を参観する場(全員参加ではなく、希望者だけでも)がもう少し多くあるといいなと思えます。実態が分からず、評価が難しい部分もありました。 ○私は昨年の学校評価の本欄に継続的な「自校教育」の必要性について述べさせて貰いました。再説しますが、自校教育とは自分の学校の創立理念、歴史・伝統など不易の部分をしっかり受け継いでいく教育です。その不易の部分の共通理解と職員・生徒・保護者による共有が学校の今後の更なる発展につながります。自校教育にとって大切なことは、根本理念を「変えないこと・保守すること」です。変えないからこそ、変わらないからこそ、独自の校風の基に新たな歴史と伝統が形成され、卒業生と在校生が繋がっていくのです。 大分県でいち早く総合学科を誕生させた日田三隈高校は、卒業後 10 年余りが経過し 30 歳を過ぎた卒業生が、高校時代に描いた夢をいかに実現させつつあるかについて発表する機会を設けているそうです。総合学科の理念に則った素晴らしい企画だと思えます。本県最初の総合学科高校としてスタートした都農高校のスローガンは「一人ひとりの夢づくり」でした。総合学科は自分で自分の将来を設計し実現していく力を養成するところにその存在意義があります。したがって、生徒の自主性を尊重し、教員の関与はできるだけ「消極的」であるべきです。成果を急ぎすぎると、校長が代わるたびに教育理念・方法を色々といじりすぎたところに都農高校衰退の原因があったのではないかと考えられます。開設に当たった職員達の懸命の努力が軽視され、いとも簡単に放棄されてしまった結果ともいえます。 総合学科が 21 世紀のパイオニアたる「第三の学科」として認知されるにあたって、当時「総合選択制」を採っていた本庄高校は基礎データを提供して総合学科のカリキュラム作成に多大な貢献をされた経緯があります。これは誇りにすべきことです。今後は現在の教育理念・方法を「保守する教育」を自信を持って展開して欲しいと切望しています。合い言葉は「継承」です。最後に、4 年間に渡って学校運営協議会委員を仰せつかり、自己のつたない経験知・実践知を披露できたことを嬉しく思います。有り難うございました。貴校の更なる発展を心から祈念しています。 	<p>【学校】</p> <p>年 3 回の会議のみでは、学校運営協議委員の方に学校の評価をしていただくのは非常に申し訳ない部分があった。より本校の実態を伝えられるような資料の提示や、定期的な資料の提供を行う必要があったと感じる。本校のホームページのブログにおいて定期的な情報を更新しているので、更新した時に見てもらえるような手立てを考える必要があった。</p> <p>また、委員からの評価において、重点目標の一つである「本校の特色・魅力づくり」においては高い評価をいただいた。次年度においても今年度を踏襲し更に積極的な魅力づくりを継続していきたい。反面、「学力・専門性の向上」においてはまだまだ検討の余地があると考えます。</p> <p>今後は委員の意見を取り入れながら見直しをおこない取り組む必要性を感じた。また、コミュニティ・スクールのモデル校としての多くの取り組みについて昨年度は非常に高評価をいただいたが、今年度は、特に新型コロナウイルスの影響で、予定していた取り組みが実施できなかったことも多くあった。そういった中で、新しいアイデアを出し、新しい形の校内ボランティアを確立できたことは収穫であった。これは本校の、コミュニティ・スクールのサポートスタッフである井戸川先生の功績が大きい。</p> <p>今後は地域と連携し地域資源を活用した取り組みを実施していくことで、地域に信頼される学校になるのではないかと考えている。今後は「地元で活躍し、地元をリードする人材の育成」に向けた取り組みを職員一丸となって実施していきたい。</p>
---------	---	--